善導の指方立相説について

はじめに

中国浄土教の祖師善導（六一三～六八一）の仏身仏土観を明らかにする上での一視点として、小論では『観経』第八像観を注釈する中で説示された「指方立相」説に注目する。指方立相とは「浄土が西方の方角にあることを指し示し、具体的に説かれるところに大きく特徴がある。このことは善導が、心作仏心仏を根拠としている。」と批判的に述べていることからも観える。

また、指方立相については、その内容が二尊教、二仏構造といい、指方立相にまで、その明かなる点に留意し、考察を進められてきたい。

市野智行

経文宗（二通りの視点）

この課題を解明していくには、像観の逐語的な解釈ではなく、善導の『観経』を念頭に置かなければならない。その一つが『観経』の対告表である夢提希を凡夫と押さえる点にある。これについては像観の注釈の中でも、
善導の反対立相説について（市野）


doi:10.14989/89916
善導の指方立相説について（市野）

そのが、「唐代観浄の凡夫」が観法という実践に堪えうることができるのは、言わば行の判釈である。像観では、

善導の指方立相説について（市野）

観の二三の当指さに、通観想の讃もはくに導く、善に蔵のう存経。

善導の指方立相説について（市野）

上來雖說定散門之益。望仏本願意在眾生一向專弥陀仏名下大

善導の指方立相説について（市野）

正蔵、正蔵、大経、善名念仏をもって観の教旨として押さえていくことからも窺える。つまり、凡夫が阿弥陀仏の浄土へ往生するこ

善導の指方立相説について（市野）

とができる行こそが、善名念仏であると押さえていくのであ

善導の指方立相説について（市野）

る。それ故、善導が流通分において、上述諸相説平等一若以願行取収、非無因緣。然弥陀世尊一本発深

善導の指方立相説について（市野）

重誓願以光明名号撰十方。正蔵、正蔵、四三九中。善導の指方立相説について（市野）

善導はここで阿弥陀仏の因位、即ち法蔵菩薩の願行をその

善導の指方立相説について（市野）

根拠にあげる。つまり、設我得仏、若不生者不取正覚とい

善導の指方立相説について（市野）

う一切衆生の救済を誓う願とそれに相応した行があるからこ

善導の指方立相説について（市野）

と、西方に向かうべき意義と根拠がそこはあるというのであ

善導の指方立相説について（市野）

る。一方、その衆生に対しては、

善導の指方立相説について（市野）

但使信心求上人形下至十声一声等以仏願力易得往生。正蔵、四七四三九中。善導の指方立相説について（市野）

善導の指方立相説について（市野）

と善名念仏を勧め、仏願力によって往生を得ることを述べて

善導の指方立相説について（市野）

いう。この「往生礼讃」の問答も、大経に基づく視点か

善導の指方立相説について（市野）

おわりに

善導の指方立相説について（市野）

このような視座から像観や日想観での題問を見ていくと、

善導の指方立相説について（市野）

真身観に先立つ便宜としての意味だけではなく、そこに大

善導の指方立相説について（市野）

このように、日想観と像観の共通点に注目するとき、観仏

善導の指方立相説について（市野）

三昧と念仏三昧という二つの視点より、指方立相説の内実を
十三観への注釈や、指法立相の考察を鑑みると、念仏三味を通した観仏三昧として捉えていくことのほうが妥当であるように思われる。展開論の場合、對立概念として論じられることがしばしばあるが、一経両宗であるかぎり、観仏念仏両三昧は対立関係ではないはずである。この点については今後の課題とした。

キーワード
善導
指法立相
一経両宗
凡夫